

議員（門 秀俊）

2番、門 秀俊、一般質問させていただきます。

瀬戸内国際芸術祭 2022 についてです。9月29日木曜日より、瀬戸内国際芸術祭 2022、秋開催が始まります。本町高見島では4回目の開催となります。今回は過去の作品のリニューアルを含め、高見島、本土側合わせて15の新作と17の作品が予定されるとお伺いしております。しかし、今年は過去3回の瀬戸内芸術祭とはまた違った開催となることでしょうか。それは、新型コロナウイルス感染症対策を行うことです。この夏、新型コロナウイルス感染者の第7波で感染者が劇的に増加したということです。報道によると過去と対比して春会期は60%、夏会計は80%の来場者とされています。後の発表で70%と言われてました。ウィズコロナということで、徐々に回復傾向にあるようです。瀬戸内国際芸術祭で来島されるお客様は、定期船を利用されることでしょうか。高見島の島民だけではなく、佐柳島の島民も定期船を利用します。島民のほとんどの方が、高齢者です。よって、新型コロナウイルス感染対策は最も重視しなければなりません。

ここで質問に入らせて頂きます。3月での一般質問でもお伺い致しましたが、第7波での感染者が増加しましたが、島内での感染対策はその後、変更または強化したものはありますか、お伺い致します。

政策観光課長（土井 真誠）

門議員の島内での感染対策についてのご質問に答弁をさせていただきます。

瀬戸内国際芸術祭 2022 における新型コロナウイルス感染対策につきましては、政府の新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針及び新型コロナウイルス感染症に対する香川県対処方針を基本的な指針として、新しい生活様式や業種ごとに策定される感染拡大予防ガイドラインなどに基づき、県実行委員会が策定した新型コロナウイルス感染症対策の指針に基づき、対応してまいります。この指針につきましては、夏会期時点では令和4年3月定例会でお答えした内容からの変更はなく、指針に沿って、飛沫の抑制や手洗い、消毒、換気、密集の回避など基本的な感染対策を徹底するとともに島ごとの状況に応じて、来場者の検温及び体調確認や有症状者の発生時の対応などを適切に行うこととなっていました。しかしながら、県内の新型コロナウイルス感染者が増加していることを踏まえ、令和4年7月14日に開かれた香川県新型コロナウイルス対策本部会議において、高松港における高性能検温器やミストファンの設置による感染対策の強化、発熱等の症状がある方に来場をお控え頂くことや出来る限りワクチン接種を行った上で来場すること。マスクの適切な着用を徹底することなどの周知の強化、地域の交通機関や宿泊施設、飲食店などに対して、それぞれに対応する感染拡大予防ガイドラインの遵守など必要な対策が講じられるよう協力要請を行うこと。その他、多言語での周知強化などの対策強化が図られました。現時点では、秋会期における対応について特段の通知等はご

ざいませんが、県実行委員会と密接に連携をとりながら適切に対応を行ってまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

有難うございます。

続いて来島者と島民が同じ定期船に乗船しますが、区別はしていますでしょうか。よろしくをお願いします。

政策観光課長（土井 真誠）

門議員の定期船の乗客の区別についてのご質問に答弁をさせていただきます。

定期船への乗船につきましては、検温などを実施し、乗船券を購入頂いた後、多度津港栈橋上で島にお住まいの方、佐柳島に向かう方、芸術祭来場者に分けて整列して頂くこととしております。乗船時は最初に島にお住まいの方、次に佐柳島に向かう方、最後に芸術祭来場者の順番で乗船案内を致します。また、定期船をお待ちの人数が定員を超えている場合、付け舟を運行致しますので、その際は付け舟に芸術祭来場者をご案内致します。付け舟は佐柳島には行きませんので、島にお住まいの方と佐柳島に向かわれる方につきましては、定期船にお乗り頂くようご案内致します。なお、船内で乗客の区別を行うことは出来ませんが、栈橋上でマスクの着用など基本的な感染対策にご協力して頂くようにお声掛けし、乗船されている高見島、佐柳島の住民の方々が不安を感じることがないように努めてまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

有難うございます。

島民の方々は、船内が来場者と1番近くになります。感染対策の徹底の方、よろしくお願い致します。

次いで質問です。瀬戸内国際芸術祭を盛り上げるためには、ボランティアの方々の協力が必要です。今年度はどのような対応をされていますか。お願い致します。

政策観光課長（土井 真誠）

門議員のボランティアの方々の協力についてのご質問に答弁をさせていただきます。

芸術祭につきましては、過去3回とも議員の皆様を始め、多くの個人、企業、団体の方々にボランティアスタッフとしてご協力頂いております。今会期につきましては、高見島の屋内作品が前回の9作品から10作品に増えていますが、作品受付が2ヶ所となったことで、高見島会場に必要なスタッフの数は減っています。しかしながら、新たに本通地区でも屋内作品が2作品展開されることから、引き

続きボランティアスタッフの方々のご協力が必要な状況でございます。現在、町内の企業、団体などへお声掛けを行うとともに、瀬戸内国際芸術祭公式サポーターである「こえび隊」と多度津町への隊員の派遣について、調整をしております。また、大変恐縮ではございますが、前回に引き続き、今会期につきましても議員の皆様のご協力を賜りたいと考えておりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

再質問致します。

今回は屋内作品に人がつかないと聞いておりますが、屋内作品の中で密にならない対策と展示物が損傷しないような対策はどのように考えられていますか、お願い致します。

政策観光課長（土井 真誠）

門議員の屋外展示の管理についての再質問に答弁をさせていただきます。

屋内作品につきましては、前回会期までは各作品に受付を設置し、各作品1名から3名のスタッフで受付業務を行ってまいりました。今会期では本通地区の作品につきましては、従来どおり各作品での受付となっており、受付スタッフを配置することとしております。高見島会場の屋内作品につきましては、前回は上回る10作品が展開されており、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、「こえび隊」などの人員確保が難航している中で、全ての作品に受付スタッフを配置することは困難であるため、県実行委員会が作家の方々の意向を確認した上で、作品受付を集約することと致しました。具体的には、浜地区にあります「時のふる家」と「高見いこいの家」前の2ヶ所に受付を設置することとなりました。「時のふる家」以外の高見島の屋内作品につきましては、損傷、トラブルなどがないかを3名のスタッフが手分けをして定期的な巡回を行います。併せて、作品に触れないようにと掲示の方も行う予定でございます。また、密集対策につきましては、スリッパを使用する作品では、あらかじめ密にならない人数分のスリッパを用意しておき、入り口にスリッパがない場合は入場お待ち下さいといった掲示を行います。その他の作品につきましても入り口に掲示を行い、対策するとともに巡回スタッフが適宜声掛けを行います。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

はい、有難うございます。

次の質問に入ります。本町の本通地区に2ヶ所、展示物があるとお伺いしていますが、来島者の方々にどのような案内の動線を考えられていますか。よろしく申し上げます。

政策観光課長（土井 真誠）

門議員の本通地区への動線についてのご質問に答弁をさせていただきます。

芸術祭に会場して頂いた方々への本通地区への動線につきましては、JR多度津駅、多度津港、どちらからも徒歩約10分で移動出来ることから、シャトルバスをご利用される方々に対し、駅、港の両方で、徒歩での本通経由の移動をお声掛けしたいと考えております。本通地区の作品につきましては17時まで鑑賞することが出来ますので、高見島会場の鑑賞を終えた方も16時15分、多度津港着の定期船でお戻り頂ければ、本通地区の作品を鑑賞することが可能となっております。また、お車でお越しの方につきましては、旧職員駐車場から徒歩で移動頂く動線をお勧めしたいと考えております。その他、県実行委員会が作成し、町内各所に設置する案内看板にも「多度津まちなかプロジェクト」の場所を表示し、来場者の方を誘導出来るように準備を進めております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

次の質問。会期終了後の展示物の活用方法はどのようになっていますでしょうか。

政策観光課長（土井 真誠）

門議員の会期終了後の展示物の活用方法についてのご質問に答弁をさせていただきます。

会期終了後の作品につきましては、会期終了後には原状に戻す。すなわち会期中のみの作品が原則となっています。継続作品につきましては、屋内作品、屋外作品を問わず、芸術祭が閉幕した後、県実行委員会が決定することとなっています。継続された場合、屋外作品につきましては、常時公開となりますが、屋内作品につきましては、原則一般公開が出来ません。現在、高見島におきましては、屋外作品の継続作品はなく、屋内作品の継続作品のみが県実行委員会主催の「アート瀬戸内」などのイベントで特別に公開されています。今会期の作品につきましては、どの作品が継続となるか現時点では決定しておりませんが、屋外作品が継続作品となった場合は、芸術祭開催期間以外に本町を訪れる方が増加するような情報発信等を検討してまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

次の質問行きます。

来島された方々への多度津町の魅力など、アピールするものの工夫は何をされていますでしょうか。

政策観光課長（土井 真誠）

門議員の多度津町の魅力アピールについてのご質問に答弁をさせていただきます。

本町の魅力アピールにつきましては、会期中、多度津港案内所、高見島案内所に観光パンフレットなどを設置し、来場者の方々への情報発信を行います。前回会期では来場者の方々に直接パンフレットを手渡していましたが、今会期では新型コロナウイルス感染対策として、原則、設置してあるパンフレットを来場者の方自身でとって頂くこととなっていますので、設置の方法などを検討し、より多くの方に手に取って頂けるように努めてまいります。また、観光のみならず、ふるさと納税のパンフレットも設置し、本町にご寄附頂ける方を増やしていきたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

再質問致します。JR多度津駅でのPRの方はどのように考えられていますでしょうか。よろしくお願いいたします。

政策観光課長（土井 真誠）

門議員のJR多度津駅でのPRについての再質問に答弁をさせていただきます。会期中はJR多度津駅から多度津港を結ぶシャトルバスを運行致しますので、シャトルバスの座席に観光パンフレットやふるさと納税に関するパンフレットなどを設置し、利用者の方々に対し、本町の魅力をPRしたいと考えております。設置したパンフレットはバス車内でお読み頂くだけでなく、お持ち帰り頂き、定期船や帰りの電車などでお読み頂くほか、陸地部での散策にも活用頂きたいと考えております。シャトルバスは、前会期も多くの方にご利用頂いておりますので、1人でも多くの方に本町の魅力を発信出来るよう準備を進めてまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

今会期終了で、3年後の瀬戸内国際芸術祭2025に参加する予定はありますか、お答え下さい。

町長（丸尾 幸雄）

門議員の瀬戸内国際芸術祭2025への参加についてのご質問に答弁をさせていただきます。

瀬戸内国際芸術祭につきましては2010年から開催され、今回で5回目、本町は2013年から参加しておりますので、4回目の参加となります。2019年の前回は、過去最多の約118万人の方が訪れ、経済波及効果は芸術祭全体で約180億円に上りました。今会期は、コロナ禍での開催ということもあり、春会期・夏会期では、最終的に、ともに前回の約6割の来場者数となっております。秋会期での来場者数や今回初めて実施される陸地部での作品展開による本町への効果等を検証しながら、次回以降の方針を検討するべきであると考えております。また、県知事が交代されましたが、現時点で次回以降の芸術祭に対する方針は示されておられませんので、今後の

県の方針等を注視しながら参加についての検討を図ってまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

有難うございます。

瀬戸内国際芸術祭の成功は、町全体での協力が必要です。また、香川県の多度津町をアピールすることで、関係人口の増加のチャンスでもあると思います。また、先日、監査役報告にもありましたが、外国語表記の案内掲示板を設置するとともにQRコードでの町内スポットや飲食店の位置を表示することや駅や港での観光ビデオを放映するとありました。まだ出来ることがあるかも知れません。瀬戸内国際芸術祭の会期中にまだ間に合うことは間に合うと思いますが、いかがでしょうか。要望とさせていただきます。

以上で、一般質問を終わります。